

## 介護を要する一人暮らし高齢者の過疎山村に 暮らし続ける意思の探究

### A Study of the Will of the Aged Who Live Alone and Need Care Regularly in a Sparsely Populated Mountainous Village

新井 幸恵  
Yukie ARAI

#### 要 旨

過疎集落の中でも山間地域に住む高齢者の生活条件は厳しく、介護を必要とされる高齢者であればなお更のことである。2009年9月現在、人口48名の埼玉県A集落での2年半を経過したミニデイサービス(2006年から行われているサテライト型介護予防事業として月2回開催、15名前後の参加)で、介護認定を受け一人暮らしをする3名の方の、集落に住み続ける意思を探究した。談笑の中での聞き取り及びインタビューから、暮らしやすさを表現する51項目、暮らしにくさを表す44項目が分類された。心身の不調への対応、また山間地域固有の住居環境に関しては暮らしの継続に困難を強く感じている事、しかし集落内友人間で交わされる野菜や食材などのやり取り等が、暮らしを持続させる手段として強く機能している事、集落から他出した子供世代や集落内友人からの物心両面のかかわりに期待している事、生きがいや楽しみ等肯定的な思いが示された。更に病は持ちながらも山間地域固有の困難も受け入れ、可能な限り集落で暮らし続ける為の、集落維持再生にもかかわるアイデアを持つ暮らしの主体としての意思が示された。

#### はじめに

1955年代以降の高度経済成長期を境に、とりわけ1965年国勢調査の公表以降「農山漁村を中心とする地方の人口を急激に都市、特に大都市に吸引する結果をもたらした。」<sup>1)</sup>として過疎問題が社会

政策上認識されるようになった。これに対し山村振興法(1965)、過疎法(1970年から4次にわたる)が施行されてきた。しかし国交省(2007)の調べでは過疎地域は738市町村を数え(国土面積の54%)、10年以内の消滅が予測される集落、およびいずれ消滅が予測される集落を合わせると、

十文字学園女子大学人間生活学部人間福祉学科

Department of Human Welfare, Faculty of Human Life, Jumonji University

キーワード: 過疎 介護福祉 高齢者の想いや願い 集落支援 暮らしの主体としての意志

2643集落、過疎地域の12.65%を占めその広がりが示された。<sup>注1)</sup>「限界集落化や集落内の高齢化問題」<sup>注2)</sup>や、「集落移転」<sup>注3)</sup>、等が社会的にも提起されるほど過疎化が進行している。埼玉県下には上記調査で明らかになった集落が25あるとされ、その内、地勢から最も社会生活の維持が困難とされるものの一つがA集落である。

2002年の埼玉県A集落を含むB町の調査によると、A集落の65歳以上高齢者の意思是介護が必要になったとき、「介護保険や保健福祉サービスを使って自宅での介護」(37%)が、「家族による介護」(18.9%)や「高齢者施設での介護」(16.2)%を上回っていた。<sup>注4)</sup>一方、山間地域は、近年の市町村合併によりさらに行政の視野から見落されやすく、細やかなアセスメントの必要な高齢者介護をめぐる対応が遅れてきた事も報告されている。<sup>注5)</sup>2008年国土交通省は、65歳以上の高齢者が50%以上の集落を含む地区に居住する世帯主を、全国から20地区を選定し「人口減少・高齢化の進んだ集落で、世帯主を対象とした日常生活に関するアンケート調査」<sup>注6)</sup>を行った。一人暮らし高齢者(29.6%)のうち、これからも集落に住み続けたいとするものが86.8%あり、高齢になるほど定住志向が強いことが示された。自宅や地域への愛着を挙げているものが多かった。しかし、埼玉県やA集落を含むC市では、山間部固有の課題を持つ高齢住民の定住志向に対応した総合的な(総務・国交・農水・厚労の省庁を統合した)地域計画はない。今回、中でも介護を要する一人暮らし高齢者に焦点を当て、定住意思に潜む生活主体としての意識を住民の言葉で捉えたいと考えた。本研究はどのような居住生活条件が整えば要介護状態となっても定住が可能かという集落活性化研究のパイロットスタディとして位置づける。

## 第1節 研究の目的・分析枠組み・研究方法

### 第1項 研究目的

過疎山村に居住する高齢者は、長らく厳し

い労働や暮らしを体験し、集落に住み続けてきた。<sup>注7,8)</sup>埼玉県A集落は2005年の合併によって包摂されたC市の中心部へは、車で1時間、介護事業所へは40分の距離であった。筆者は2007年より集落の公民館で行われるミニデイサービス(月1~2回)に参加、当事業が「集落の活気」に影響してきた経過を示した。<sup>注9)</sup>しかし山村集落では自治会運営も困難を増し、要介護一人暮らし高齢者の声は、活動に吸い上げられにくい。また介護保険によるサービスや情報もその地勢から、提供に困難と労力が伴う。

C市支所管内では2009年3月より高齢化率が50%を超える2集落を対象に集落支援会議を設置し、支援計画を立案するところである。この中で、過疎地域ゆえに介護サービスの供給が厳しい中において、要介護状態になった時、施設入所や入院に至る間、どのような支援が現実的に可能か検討されてきた。井上(2003)が、一人暮らし高齢者の援助の要点として、利用者の生活状態の把握と信頼関係の構築が必要であり、そのためには「利用者の意思を尊重すること」、「共に生きてゆこうとする姿勢を示すこと」<sup>2)</sup>が大切であると述べているように、もっとも重視されなければならない事は、当事者の暮らし続けようとする意思の掘り起こしである。本稿では、今後取り組まれる山間地域における支援計画の展開に資するために、埼玉県A集落を一例に、介護を要する一人暮らし高齢者の暮らしの継続に関する意志を顕在化・確認することを目的とする。

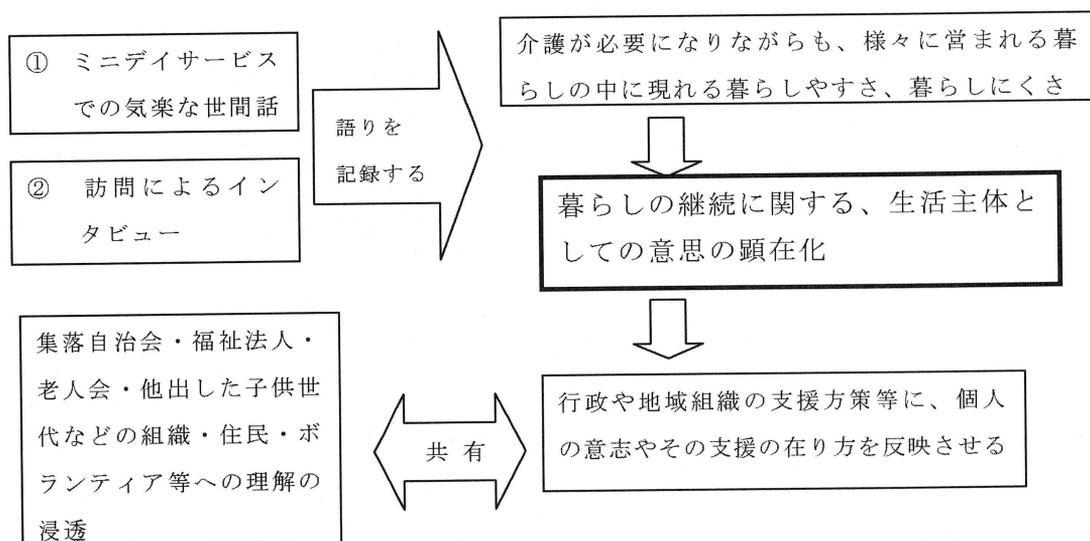
## 第2項 分析枠組み 研究方法

〔1〕分析枠組み：本稿では暮らしの継続に関する意志を、当事者の語りの記録に焦点を当て検討するが、とりわけ山間地域の住民を、部外者が理解しようとすることは容易ではない。これを可能にするには、文化人類学や生命倫理学などで採用されてきたナラティブアプローチの示す当事者から「教えてもらう」<sup>3)</sup>スタンスではないだろうか。

山村高齢者身がその暮しの要望を語り、これを踏まえた上での支援の在り方について、中村(2007)はライフストーリーや口述による三重県熊野市内の山村での記録から「これまで一律的な管理対象としての老い／老人と、それによって導き出された制度政策を、再編することを要請する静かな力に転嫁することでもあり」、「こうした彼／彼女らの小さな営みである日常実践を発見し、さらにはその地域における老人福祉制度を豊かにし、それを政策形成へと展開すること」<sup>4)</sup>を提起している。また、江口(2008)は過疎集落に生きる人々の生きがいや地域への思いを、「語り」から文集という形での効果を測定し『「語り」』の内容を支援策の参考にすることも一つの有効な手段であろう。<sup>5)</sup>と、「語り」と支援の関連に言及し

ている。

心身の不調がありながら要介護認定を受けるまで住み続けてきた人々の、暮らしの継続への意思を理解するためには、日常的に語られている事を掬い取り、地域の労働や暮らしの理解を背景に、真意を読み進め支援に連動してゆくことが必要と考える。何に暮らしやすさを感じ、何に暮らしにくさを感じてきたのかを把握することで、暮らし続ける意志を支える内実を捉えようとした。2008年、ミニデイサービスで、仲間と共に気楽に語られたことを資料1とし、2009年、さらに加齢が進む中、自宅への訪問でのフリーインタビューで語られたものを資料2としこれらを統合して分析検討する。



## 〔2〕研究方法：

①調査地域の選定：まず、C市は埼玉県でも全域に過疎指定されている地域であり、A集落はモデル地域として介護サービスに関する集落支援組織を形成している集落の一つであること、加えて、(i)筆者が2年間ミニデイサービスにかかわり、住民やスタッフとなじみである事、ミニデイサービスは自由度が高く会話の機会が多くある事、ま

た参加者の中には介護認定(要支援)を受けている方3名が参加されている事 (ii)A市所管内では2008年3月より集落支援会議を設置し筆者もメンバーとして参加してきた事 (iii)町会長や構成員が大学の参加や学生の学習に協力的である事等があげられる。

②地域特性：埼玉県は4市町村とC市全域が過疎指定されている。A集落は第1次産業、とりわけ

農物輸入自由化以前には、林業や薪炭、養蚕業、こんにゃく等山間地農林業の最盛時に1947年は430人の人口を数え、現在はその10.9%である。標高600mの峠を越えた南北4K、東西2k四方に8耕地にあり、27世帯、48名が居住され、平均年齢75歳、高齢化率75%である。65歳以上の高齢者36名のうち、一人暮らしは11名、うち介護認定を受けているものは3名（要支援）である。生活圏は峠を越える群馬県側に多い。日常生活維持に加え、買い物・医療保健福祉・防災・田畑や森林管理などに課題がある。小中学校は休校、商店、コンビニ、郵便局はなく、週に1回の移動販売車がある。A集落は、町内会組織、民生委員、

在宅福祉員、老人クラブ等の仕組みが機能し、これらとの協議で2006年よりサテライト型ミニデイサービスを導入、集落の絆を高める結果ともなっている。また2008年より住民のニーズを基にC市では、デマンドタクシーが運行され隣県の医療機関の送迎等に利用されている。近隣に医療機関や介護保険事業所はない。

### ③調査対象者

A集落では3名が介護認定を受けているが、3名とも2006年のミニデイサービス開始時より参加し筆者は2007年より月1回かかわってきた。48名の住民中、ミニデイサービスへは約20名が、独居高齢者世帯は5～6割が参加している

表1 基本属性 (2009年6月現在)

基本属性	内 容
A 氏 90 代 (男性) 歩 行障害・腰 痛杖歩行	A集落に生まれる。集落の主な役職に就く傍ら農業を手広く行い、今でも規模は縮小しながら杖をつきつつ続けている。公道から100メートルほど下った日当たりのよい斜面に居住。歩行障害・腰痛等を持ち通院。長男が月1~2回来訪。家事、畑作業、通院などを助けている。妻が亡くなって数年になる。集落の人とはミニデイでの交流があるのと、週に1回ほど総菜等を持って訪ねてくれる他耕地の人がいるが交流は少ない。
B 氏 80 代 (女性) 歩 行障害・腰 痛・杖使用	生まれは近隣のG県。22才で見合い結婚。店を営み、ダム建設とともに山間部へ移住、継続していたが夫亡き後は店を畳む。次男、孫の来訪が週に1回はあり、買物や楽しみに車で外出している。気さくな人柄で友人も多く、電話で何かと相談される存在である。夫の死後は落胆して心身の病があったが回復する。毎日一人で家の前の道路で、歩行練習を欠かさない。
C 氏 70 代 (女性) 腰 膝痛、時に 心身の不調	生まれは近隣のG県。20才で世話人の仲介で結婚。嫁として妻として、苦勞されたとのこと。畑があったが山の上であり耕せず、主な食料はひき売りからの購入と月1回訪れる長男が購入する。子供には迷惑をかけたくないと質素な暮らしである。また心身の不調から閉じこもりがちという。トイレ、風呂が外付けである。友人が時折、総菜などの面倒をみに訪れる。

### ④調査方法

(i)集落公民館での聞き取りは2008年6月、7月、8月の第3月曜に行われたミニデイサービスのお茶の時間に他のメンバーとともに語られた内容から抜粋した。筆者及び本学4年生、3名が聴き取った話の中から、集落の暮らしに関連する言葉を、ノートを基に95枚のカードに作成した。カードを分類したところ、身心機能13、食事を中心とした

家事の維持10、住まいの環境16枚、移動に関する事5、友人との関わり8、家族との関わり6、家計について7、生きがいや楽しみについて17、自分自身の将来について6、サービスの利用その他7に分けられ、これは、暮らしやすさを表現するもの51枚、暮らしにくさを表現するもの44枚に分けられた。

(ii) (i)で現れた言葉の背景を把握し、暮らし

の継続に関する意志の内容に近づくために、A、B、C氏について2009年6～8月に集落支援員とともに、自宅訪問、目的を伝えフリーインタビューを実施分析した。①心身の様子、②食事を中心とした家事機能③子供との同居・訪問④困っていること⑤自分や集落の将来⑥介護保険サービス思うことを中心に行った。公表に関しては文書にて承諾を得、語りたくない事については、いつでも中断できることを伝えた。分析解釈にあたって助言者としてミニデイサービスを行う社会福祉法人理事長（日本介護福祉学会共同研究者）、また集落支援員の協力を得、(ii)を合わせて暮らしの継続

に関する意志を分析、考察した。

## 第2節 結果

### 第1項 ミニデイサービスでの語り（2008年6月7月8月第三月曜）

表2 10項目に分けられた主な語り（表2）

暮らしやすさを表現するものは平均5.1枚であり、8生きがい楽しみが10枚と最も多かった。また暮らしにくさを表現するものは、平均4.4枚であったが3・住環境に関するものは11枚、1・心身機能に関するものは8枚と多かった。

表2 \*表中のabcはそれぞれA氏、B氏、C氏の語りの内容を示す。

	(1) 集落での暮らしやすさを表現するもの	(2) 集落での暮らしにくさを表現するもの
I 心身の機能 I	①体操教室は励みになる(b) ②手押し車でのウォーキングを日課にしている(b) ③寂しいと思った時期は過ぎた(ac) ④薬のおかげで良くなった(bc) ⑤困った時にはすぐ友達に電話する(bc)	①慣れているが、寂しいこともある(b) ②泥棒など入られて辛かった(abc) ③緊急時、間に合わないおそれ(abc) ④夜、体調が悪くなると不安になる(bc) ⑤浴槽が深く風呂には入りにくくなった(c) ⑥一人では家から、中々公道に登れない(a) ⑦危ないので出かけないようにしている(bc) ⑧膝・腰・背中での痛みで歩けなくなる(abc)
2 家事機能 II	①食品の移動販売(c) ②野菜は何でもあるから困らない(ab) ③友達が持ってきてくれるからありがたい(ac) ④同じものでも大勢で食べるのはおいしい。(bc) ⑤大きな掃除は社協のサービスで(b) ⑥子供が定期的に来てくれ、片付けや買い物(ac) ⑦買物はたまには自分で店に行き、選びたい(ab)	①面倒で、料理する気が起こらない時がある。誰か作ってくれれば(abc) ②引き売り（食品の訪問販売）の品物の期限切れがある(c) ③億劫でご飯だけで済ますことが増えた(ac)
3 住環境 III	①窓から見える自然の豊かさ、ありがたさを日々感じる(abc) ②建ってから二百年の古い家、古い家並みを見ると安心する(a) ③一人でいると気分が落ち着く(abc)	①トイレや風呂が外にあり使いにくい(c) ②台風で土砂災害時一週間も停電した(a) ③ヘリポートなど完成できない(a) ④道から自宅への道の登り下りで転んだ(ac) ⑤冬は寒くはやく寝てしまう(ac)

	<p>④友達が山から下りてきて落ち葉掃きをしてくれる(b)</p> <p>⑤なんとかやっている(a b c)</p>	<p>⑥道路が凍結して車が入らない(a)</p> <p>⑦積雪時、自宅までの雪はきができない(a c)</p> <p>⑧イノシシなどの獣害が増え困る(b c)</p> <p>⑨沢からの水が出なくなって困った(b c)</p> <p>⑩住宅改修は費用がかかるからできない(b)</p> <p>⑪畑まで歩けず、収穫できなくなった(b c)</p>
4 移動条件	<p>①デマンドタクシーは良かった(a b c)</p> <p>②用事がある時には、頼めば子どもが迎えに来てくれる(a b c)</p>	<p>①デマンドタクシーにも遠慮(a c)</p> <p>②買い物デマンドタクシーは使えず(a b c)</p> <p>③バス停まで歩けず、バスは使えない(a c)</p>
5 友人との関わり	<p>①今でも週一回は訪ねてきてくれる(a)</p> <p>②とりたての野菜を持ってきてくれる(a b)</p> <p>③小学校空き部屋で泊まりができる所を(b)</p> <p>④電話で心配事なんか話すと安心する(c)</p> <p>⑤ミニデイサービスは元気になる(a b c)</p>	<p>①友人に会えなくなって寂しい(b)</p> <p>②3日も4日も人と話さない時がある(a b c)</p> <p>③集まりたいけど、人に頼まなければいけないところには遠慮がある(a c)</p>
6 家族からの支援	<p>①通院(a c)</p> <p>②買い物(a b c)</p> <p>③孫や子供が定期的に来る(a b c)</p> <p>④子供や孫がここへ来る事を楽しみにしてくれる(b)</p> <p>⑤若い衆が定年で帰ってきてくれるかも(b)</p>	<p>①家族には家族の生活があるので、あてにしない(a b c)</p>
7 家計の維持	<p>①一年中、畑からの作物の収穫がある(a)</p> <p>②友人持参の野菜があり嬉しい(a b c)</p> <p>③子供が食料を送ってくれたりする(a b)</p>	<p>①月に三万円ちょっとの国民年金(b c)</p> <p>②身体が悪く作物収穫が減少、購入(a b c)</p> <p>③子供にお金をくれとは言にくい(b c)</p> <p>④デイサービスも金がかかるのが心配(b c)</p>
8 生きがい・楽しみ	<p>①畑仕事の面白さ、野菜や草花の世話は楽しい(a b)</p> <p>②他出した子供も何かと協力(a b c)</p> <p>③自然を眺めていると寂しなくなる(a b)</p> <p>④空気や水がおいしいこと(a b c)</p> <p>⑤友人や家族に収穫物をあげる(a b c)</p> <p>⑥体操やミニデイサービスが楽しみ(a b)</p> <p>⑦墓・神社を大切にしたい(a b c)</p> <p>⑧ここにこうして生きているだけでいい(c)</p> <p>⑨村の外のデイサービスにも通いたい(a b)</p> <p>⑩昔は苦勞だったから、こんな(楽な)時代が来るとは思わなかった、これでいい(b c)</p>	<p>①体調ややる気が起こらずつまらない(b c)</p> <p>②畑への道が危険で耕作はやめた(b c)</p> <p>③気軽に集まれる場所がない(b)</p> <p>④3日も人と話さない時もある(a b c)</p> <p>⑤昔と比べれば寂しい(a b c)</p> <p>⑥ひとりだとつまらない(b)</p> <p>⑦体操やミニデイサービスには送迎が大変だから気兼ね(a c)</p>

9 自分の将来	①子供たちが定年で帰ってくるかも(b) ②子供の家にはいられない(a b) ③子供から村を捨てないでくれ、自分の行き場所がなくなるから、と頼まれた(b) ④ここが一番いいところだから他所へは移らない(a)	①早く子供の家に行きたいと思う時がある(b) ②動けなくなったらここにはいられないと思う(a b c)
10 介護サービスの利用その他	①デイサービスに出られれば(a b) ②できるだけこの土地で終われるようにしてほしい (施設等で)よその人とは暮らしたくない(a b c) ③食事を配ってくれる日があれば(a b c) ④食事だけ作ってくれれば(a b) ⑤ミニデイでいろいろな相談に乗ってくれる(b c)	①介護保険は金がかかる(a b c) ②ヘルパー等は山の中で、遠いし、来てくれないと思う。(a b c)

## 第2項 A、B、C氏のインタビューで語り

ミニデイサービスから1年後に、集落支援員K氏と訪問した際のフリーインタビュー記録を概観する。A氏への訪問は2回目、B氏へは3回目、C氏へは初回であった。約1時間弱のインタビューであり関連事項を抜粋した。

1 A氏のインタビュー(2009年6月7日午前)公道から谷に向かって斜面に造られた急な私道を曲折しながら15分程下るとA氏の家がある。広い畑の半分には草花や夏野菜が植えられていた。

体調：①この1か月は動くのが大ごと(大変である)②それでも働かなくても、作物を見に行くだけで畑に行くのがいい。テレビは何言っているのかわからないから見ない。

食事：③前は料理もよくできたんですが、だんだん大ごとになってきた。④魚類は倅が2週間に1回、凍らしたやつを持ってくる。買い物はほとんど倅。間に合わない時はG県に住んでいる長女。

子供の所に行く事：⑤ここに一人でいる方がいい。村の人は村から子どもの家へ出てもすぐに

帰ってきちゃうらしいですよ。1週間もいると飽きちゃうんです。野菜とか何かつくって事が好きなんです。

寂しさ：別に寂しくはないけどね 兄弟は電話はちょいちょいよこす。

交通の不便：⑥前は1日何本もバスがあったので便利でしたが、今はバスも無くなって年寄りには運転できないから大変なんです。用事の際は人を頼んで乗せてってもらうがあまり頼めない。

困ること：体が丈夫なうちはここで暮らしたい。ひとりだけで動けなくなったら困るなあと考える。⑦デイサービスってのは丈夫なうちはそこに行き、動けなくなったらよそへ移るんだって。そんなじゃあデイサービスってヘンですよ。週1回で、1か月7000円も金を取られるんですよ。

村の将来：⑧無くなるんじゃないですか。おそらく無くなると思いますよね。必ずなくなる時が来る。でも、木が売れるような時代がまた来れば、なくなるかもしれないという気がしますね。

2 B氏のインタビューで語られたこと（2009年8月2日午前）

B氏の家はG県から入る県道の一番初めに現れる道路ぎわにある。公道から土間までは急な登りで、一昨年は転倒、腰椎圧迫骨折などして入院している。スポーツ新聞と地方紙を必ず読んでおり、ニュース、スポーツ、料理番組等の関心が高い。夫が亡くなるまでは集落で唯一の商店を経営していたので、集落の動きは大変良く見聞きしている。体調：①体操教室で習ったので欠かさずやっています。おとし転んで、背骨を傷めて入院してから、身体が言うこときかなくてね。家事仕事：Yさんを頼んで掃除なんかしてもらってますね。でも食事は自分で作ってます。上の（耕地の）みんなが野菜なんかいつでも持ってきてくれるから。②三男も東京で調理師してるから新鮮な魚を送ってくれ、食材には不自由しないですね。でも、たまには朝ごはん、誰か作ってくれたらなあと思う。

子供の所に行く事：やっぱり（みんながいるから）ここが一番良くてね。③あんまり辛くて、もうそっち（息子さんの家）に行きたいって息子に話したら、「あと、三年待ってくれ、そうしたら俺がそっちに行くから」って言われちゃった。前に泥棒が入った時は本当にそう思った。

寂しさ：④戸を閉めちゃえばなんともない。テレビも新聞もあるしね。でも三日も人と話さない時もある。

将来の事：⑤デイサービスに通いたいって言ったら、ここは（施設から遠いから）人が集まらなければ迎えに来れないといわれてね。おかしいと思うんですよね。差別ではないかと思うんですよね。⑥動けるうちはここにいたいですね。最後は外の病院や施設に行くのは仕方がない。⑦でも足腰が弱って不自由が増してきたときには、小学校の空

き教室を使って、泊ったり、出かけたり、自分たちでお勝手も助け合いながらやれば、村のみんなと過ごす時間も増え十分ここで生きて行けると思う。

3 C氏のインタビュー（2009年8月午後）

公道から少し上がった急な細い道を登ると一番初めにC氏の家がある。薪、炭俵や背負子などがきちんと納屋に積まれている。更に5分ほど登ると、頼りにしている知人の家が1軒ある。

苦労したこと：子供衆が3人もいたんで耐えたん。

①里帰りしても、女親に苦労を言っても、可哀そうだと思うから、可哀そうだと思うせいのはいやだから（言えなかった）。②自分の子供衆にも苦しいところは見せられない。心配するからこっちは言えない。

体調：息子が1カ月に一ぺん、病院に薬もらいに行くときに来て、連れてってくれる。次の日には泊っててくれる。③病院へは、役所の車は（ダイヤモンドタクシー）金がかかるから使わない。

食事：④食事はごはん（息子が買ってきてくれた）魚の缶詰なんか食べている。お茶もあんまり飲まない。麦茶なんかも飲まない。息子が何か送ってきてくれる。

困る事：便所が外にあるからと、息子が（ポータブルトイレを）買ってくれた。⑤上のMさんが時々来てくれてお惣菜なんか届けてくれるし、⑥村の人に電話すれば聞き届けてくれる。⑦国民年金だから貯金はできないけど、息子にお金ほしいなんて言えない。

子供の所へ行く事：⑧ここがいい。居はじめたから、よそとこなんかいやだ。知ってる人もいるし。

ヘルパーの利用：⑨一人暮らしの人は幾人もいるけどみんなヘルパーさんなんか使っていないもの。みんながそういう風にするならいいけど。

動けなくなったら：⑩子どもが病院連れていくだ  
んべ。みんな病院に行っちゃうがな。寝込  
んで動けなくなるまで（ここに）居たい。

⑪介護保険は金がなければだめだんべ。

楽しみ：⑫イノシシに荒らされてから畑はやめた。  
楽しみが減った。テレビもうるさいから見  
ない。一日誰とも話さない時もある。人と  
お茶飲みもしない。⑬用もないのに人のう  
ちなんか行ったら悪かんべ。山の中の衆は  
しっかりしてるから、遊んだりなんかしな  
い。寂しいなんて思わない。

### 第3節 考察

以上から当事者の、集落に暮らし続けようとする  
意思について考察する。

#### 〔1〕心身機能について

高齢期であること（A氏①）に加え、腰痛・膝  
痛など、山間傾斜地での暮らしや労働にも起因す  
る足腰の変形や疼痛が、畑仕事や移動を制限して  
おり、また公道から自宅までの土地の勾配はさら  
に社会参加の機会を奪いがちである。緊急時の支  
援の遅れ、医療機関への距離等が不安である〔1－  
（2）③④⑥⑦⑧〕。しかし、これらの不調を自己  
努力で予防改善しようとの意識や、家族や社会資  
源を活用しての予防も行われている〔1－（1）  
①②④〕。また友人同士での相談ややり取りが集  
落内にあり安心を支えている。〔1－（1）⑤〕ま  
た「寂しさ」は抑鬱を招く恐れもあるが、慣れて  
しまうと問題にならないようで、「戸を閉めちゃ  
えばなんともない」（B氏④、C氏⑬）と克服し  
ようとしている。

身体はきついが、作物を見に行くだけでも畑に  
行く事がよいと述べ（A氏②）、杖を突きなが

らも、作物を作り続ける意気込みについて述べて  
いる。また、B氏は転倒・骨折という危機を抱え  
た後も居住を継続しており、体操教室で習ったプ  
ログラムを日々遂行し、新しいメニューを取り入  
れていた（B氏①）。心身機能の低下や不調の克  
服を、簡単に諦めず、集落の機能や、限りある医  
療・福祉の資源を使い、意識的に工夫している。  
またC氏に見るように、経済の心配や心の不調を  
抱えつつも、結婚以来の耐える力に支えられて、  
暮らし続けようとする意志が伺える。（C氏①②）。

#### 〔2〕「食」を中心にした家事機能について

暮らしの営みの中での「食」への希望は大きい。  
食材調達の不便さ、買い物への不便、食事の意欲  
低下、一人で食べる侘しさなどが語られ、ホーム  
ヘルプや配食・会食への期待がある〔2－（2）  
①〕。老化による食欲不振や食材調達の不自由に  
加え、不調時の調理は、意欲を減退させている  
（A氏③）。ご飯だけで食事を済ましてしまう場合  
もある〔2－（2）①③〕。これに対しては集落  
内の絆も維持され、〔2－（1）③〕野菜や総菜等  
のやり取りを継続させている。さらにインタビュー  
でA・B・C氏とも他出家族や集落の友人らから  
「食」を中心に支援を受けていることに安堵を見  
出している（A氏④、B氏②、C氏⑤）。また買  
物は、できる事なら店に出かけて自分で選びたい  
との思いがある〔2－（1）⑦〕。

#### 〔3〕住環境について

自然環境の良さや懐かしい旧い家並みは、誰も  
が住み続けたい理由に挙げている〔3－（1）①  
②〕。しかし、厳冬凍結・降雪期の困難や、先祖  
代々で急峻な山を開墾して作ったや畑や家並み、  
急勾配の道が、高齢になった今、腰や膝の辛さを  
加速している。大半の家々にある家から公道への  
傾斜地は、社会参加を狭めている〔3－（2）④  
⑥⑦〕。緊急時や災害時の対応がないことは、自  
身の体験や集落で身近な人の亡くなり方を見て危  
惧している〔3－（2）②③〕。また、外便所や  
外風呂があり、夜間や冬季の用向きに苦勞されて

注：\*心身の機能〔1－（2）－①〕は、1心身の機能の  
（2）暮らしにくさを表現する項のうち、①「慣  
れているが、寂しいこともあるb」を指す。

\*「A氏①」はA氏のインタビューで、番号を付  
けた「①この1か月は動くのが大ごと」を指す。

いる。[3-(2)①]しかし、工夫しつつ「なんとかやっている」と受け入れているようにも見える。

#### 〔4〕 移動条件に関して

三氏とも運転はせず、自由な通院・買い物等に不便がある。車を近所に依頼するが近所もまた高齢であれば遠慮も生ずる。(A氏⑥)同様にデマンドタクシーは有効であるものの、利用に気遣いがあったり、ショッピングを気ままに楽しむこともしにくく(通院が主体)、また経済的に余裕のない場合には使わないなど、(C氏③)不便がある[4-(2)①②③]。しかし、日常は畑に出たり、家の前を歩いたり、用事で近くに出たりと身体を動かし、大きな用向きは家族に依頼する等、工夫している[4-(1)②]。

#### 〔5〕 友人との関わり

3日も4日も人と話さない日があり、[5-(2)①②]集い、話し合い、笑いあうことのできる場を求めており、町会・老人会やミニデイサービスが、まさに中心的な働きをしていることがうかがえる[5-(1)⑤]。支えてくれる友人もまた高齢となり、交流は途絶えがちである[5-(2)①]が、電話もかけ合っており安心を補っている[5-(1)④、C氏⑥]。B氏は嫁にきた時から苦楽を共にしてきた友人らとの語らいを楽しみに、C氏は必要な時に知り合いとのやや距離を置いた付き合い方を望んでいる(C-⑬)。村の秩序や今までの暮らしを反映した、それぞれの楽しみ方を持っている。

#### 〔6〕 家族からの支援

子供たちもそろそろ定年を迎えようとし、孫も独立しつつある。こうした中で子供や孫の訪問は気兼ねがありながらも重要な精神的・物理的な励ましである[6-(1)①②③④]。食料を運ぶ、医者に同行する、ショッピングや楽しみに出かけるなどして支えている。逆に子供に対しては、子供の生活を大事にしたいとの思いがある[6-(2)①]。子どもの暮らす街で世話される心苦し

さ[A氏④、C氏⑧]を意識しつつ、集落への訪問を期待されている。渡辺(2009)の分析した「私サポート遠慮」「子どもへの迷惑回避行動」<sup>6)</sup>概念である。

しかし、子供が「定年になったら帰ってくるかもしれない」という思いは[1-(1)⑤、B氏③]希望であり、他出した子供世代が定年後に帰郷する可能性はあり、住み続ける支えの一つとなっている。米増等(2009)は過疎地域の高齢者への、「通い家族」の支援について、「近所の人による高齢者のみ世帯の見守りや声かけ」「高齢者の支援に関する相談や助言」<sup>7)</sup>を挙げているが、子供世代との交流を図ることも必要と思われる。

#### 〔7〕 家計

かつて林業で栄えた地域であり蓄えはあるうが、国民年金だけの現金収入で、ミニデイサービスの参加費も案じられる時もある[7-(2)①④]。また、今後発生する介護保険の利用料負担が不安材料にもなり利用抑制につながりかねない。足腰の障がいや畑仕事ができなくなってくることは、現物収入の減少となる[7-(2)②]ものの、それでも何らかの作物を作り楽しんでいる[7-(1)①、A氏②]。しかし、これを集落の仲間が補い、気にかけている力は励ましになっている[7-(1)-②]。また、支援は拒まないものの、できるだけ家族に金銭面で心配をかけたくはないとの自立(律)的な想いは共通している[7-(2)-③、C氏-⑦]。

#### 〔8〕 生きがいや楽しみ

それぞれに楽しみはあるが、数々の苦勞を乗り越えてこられた誇りや感慨が語られる時、話が弾んだ[8-(1)⑩]。「昔は苦勞だった。こんな(楽な)時代が来るとは思わなかった」と、とりわけ既に消滅してしまった「祭り」、「山仕事」(林業や炭焼き)や「養蚕」の苦勞話、「嫁舅にまつわる話」は尽きることがない。集落住民に見える共通の誇りと思われる(C氏①②)。そのためミニデイサービスのプログラムが、昔の郷土料理

や仕事（わらじ作り、竹細工等）に関連したものの時には多に賑わう。心身の不自由があるものの、農作業、草花栽培、家族や友人とのかかわりは、大きな楽しみと思われる〔8-（1）-①～⑩〕。勿論、集落をめぐる自然の豊かさはそれ自体、定住の意思を強めている〔8-（1）③④⑦〕。しかし、暮らしと一体であった、農作業ができなくなってきたことの寂しさはある〔8-（2）②、C氏⑩〕。

#### 〔9〕 将来について

「子供たちが定年で帰ってくるかもしれない」という言葉が〔9-（1）①〕もちろん「あてにしてはいけない」という意識と同時にある。「私の帰る家がなくなるからここを捨てないでくれ」〔9-（1）③〕という子供のために、「家」を残す意識は、集落での暮らしを支えている大きな要素と思われる。A氏のように家の周辺に四季折々の草花を咲かせたり、杖を付き付き、畑仕事を継続されているのも将来を諦めてはいない精神力が感じられる。一方で、心身の不調、特に「動けなくなったら」、集落の生活を諦めるという覚悟も持っている〔9-（2）②、C氏⑩〕。しかし、「動けなくなっても」小学校の改修で小規模の施設を開けないだろうかという提案もしている（B氏⑥、⑦）。ぎりぎりまで集落での暮らしを諦めたくない思いがある。

また「林業の復興が、この村に若者を呼びもどし、村を再生させるかもしれない」（A氏⑧）というつぶやきは、集落住民に底通した諦めない思い、最も確かな集落再生の方途である。「ここが一番いいところだから他所へは移らない」〔9-（1）④、C氏⑧〕という思いは、数十年と苦労を重ねて住み続けてきた誇りと、人や自然環境を含む集落への慈しみにあふれている。内山（2007）のいう「（私にとって）比較する必要のない絶対的な村」<sup>9)</sup>と言える。

#### 〔10〕 介護サービスその他について

まず、この土地を離れたくない、また老人ホー

ムなどには行きたくない思い、人生のおしまいでここにいたいという意思がはっきり伺える。在宅介護、たとえば見守りや相談機能が求められ、次いで食事づくりへのニーズが見られる〔10-（1）③④〕。食事支援はⅡでも挙げたが共通の介護サービスの課題である。デイサービスやホームヘルプへの距離や悪路のために、制度利用ができないことや、システム上の問題については「へんですよ」「差別じゃないですか」とサービス利用の主体として率直に表現されている（A氏⑦、B氏⑤）。ミニデイサービスの相談機能や情報を良く活用しようとしている〔10-（1）⑤〕。低い年金額を案じるC氏のように「金がなけりゃだめだんべ」（C氏⑩）と、情報の少ない中で利用料負担のある介護保険サービスへの要望も表現されている。

上記にあげた中村（2007）はまた「障害や病とともに老いた身体と折り合いをつけながら、共同体の中に埋没したり拘束されたりするのではなく、その都度共同体に参加し、自分で決断・選択する自由を作り上げることで、その厳しい集落の現実を生きようとしている」<sup>9)</sup>とその姿を抽出しているが、三氏にもこうした集落で生き続けようとする主体的な意思が表現されている。

## 第4節 まとめと今後の課題

### 〔1〕 若干のまとめ

以上から、環境上の問題や心身の不調が危惧されるものの、身体が動く限り「ここで暮らし続けたい」、「老人施設へは行きたくない」とかなり明瞭な意思を持つことが明らかとなった。集落や身内に対し遠慮は持ちながらも将来に希望を持ち、しかし最終的な場面での覚悟もある。他出子等にとって「大切な場所を守っているという意識が、うかがえた。寡黙ではあるが傾聴すれば、貴重な「集落再生」や「定住へのアイディア」を持たれていた。①彼らを支援の対象としてではなく②暮らしの主体として再定義しなおすこと③厳しい山

間集落に生きてきた知恵を各レベルの集落支援施策に生かすことの、必要性が明らかとなった。

## 〔2〕 定住の意志を支えるための今後の課題

① B氏の提案にもあるように山間過疎地域の、居住環境の差異を考慮した柔軟な社会福祉制度の運用が求められる。例えば、都市部とは異なった地域環境を考慮した介護認定、廃校となった小学校を小規模多機能型介護施設に転用する際の運用等は、山間地域の条件に合わせて、財政支援及び、市町村の裁量に委ねる柔軟性が必要ではないか。また、山間の悪路という障害を福祉的配慮として<sup>注10)</sup>克服する事、屋外の傾斜地への手すりの設置や外トイレ、外風呂の住宅改修制度等には、C市山間部の共通課題であり独自の施策を持つこと。また、市町村合併以降、行政と住民の距離が遠くなった為に介護保険サービスの活用をはじめ、施策の浸透に支障をきたしている点の改善が必要である。

② A氏の指摘のように、林業の再生が集落の命綱であることから、都市との様々なボランタリーな交流（他出子・若者・学生等の農林業体験、交流体験）や、官産学の連携による組織的な交流等が、道を切り開く可能性を持つ。「森は海の恋人」という。<sup>注11)</sup>森林資源の保護や林業再生は、地球環境とも連なり、もはや一山村の問題ではない。また、本来山仕事の従事者には住宅や土木の専門家との密な交流がある。介護保険と合わせ、こうしたインフォーマルな交流の中で生活環境の改修も可能である。

③ C氏の抱えている食事関連等の差し迫ったニーズに対し、休校となった小学校の福祉施設への転換等、食事やサービス提供の検討が必要と思われる。食事を中心に他出子が身内を支えようとする際の課題を組織化、意識化する必要がある。また、心身の不調を支える医療への期待は定住を支える基盤として大きい。定期的な往診機能やインターネットなどを駆使した遠隔地診療機能が検討される余地がある。

④ 今後一人暮らしに限らず、集落内で増加が予測される介護を要する高齢者の意思を十分汲み取り、行政や集落自治会、また社会福祉法人、集落支援員等の支援のありかたに反映させる必要がある。

⑤ 少なくとも埼玉県内の中山間地域で高齢化率の高い集落と交流・情報を共有し、<sup>注12)</sup>省庁の施策を統合した住民主体の暮らしの継続に焦点をあてた集落政策を作成する必要がある。

〔3〕 研究の限界：以上の方法で行った暮らしの継続に関する意志は、時節、体調、前後の出来事、またサービスの整備状況や聞き手との関係性によって内容は変化・修正される可能性がある。また事例分析を増やし、一方で量的調査を行うなど、綿密で科学的な手法の駆使が必要のため、今後も様々な角度から継続的に検討する必要がある。

最後に、A氏、B氏、C氏、ミニデイサービスを運営する特養K園理事長、集落支援員、聞き取りを行った本学2005年度生・新井裕美子氏、戸口瞳氏、丸山裕美氏等に深く感謝申し上げたい。

## 注

- 1) 国交省：過疎地域等における集落の状況に関するアンケート調査（2007）
- 2) 大野晃：山村の高齢化と限界集落。「経済」, 7月号, 55-91, 新日本出版（1991）.
- 3) 総務省自治行政局地域振興課過疎対策室：過疎地域における集落の現状と総務省の取り組み,（2007）.
- 4) 埼玉県吉田町：第2期介護保険事業計画策定のための被保険者実態調査.（2002）.
- 5) 高橋憲二：市町村合併と高齢者福祉. 島根女子短期大学紀要, 第44号, 8-11.（2006）.
- 6) 国土交通省：人口減少、高齢化の進んだ集落を対象とした日常生活に関するアンケート調査.（2008）.
- 7) 秩父市教育委員会編：農村高齢者活動モデル地区育成事業生活誌.秩父の山峡に生きる 秩父農業改

- 良普及所 (1954).
- 8) 須藤功：昭和の暮らし 2. 「山村」, 農文協, (2004).
- 9) ①新井剛太郎 新井幸恵：埼玉県秩父市におけるミニデイサービスの役割と課題 1. 第15回、日本介護福祉学会要旨集, 200, 浦和大学短期大学部, (2007).
- ②新井幸恵：埼玉県秩父におけるミニデイサービスの役割と課題 2. 第16回、日本介護福祉学会要旨集, 153, 仙台白百合女子大学, (2008).
- 10) 東京都奥多摩町福祉モノレールの設置及び管理運営要綱, (2004).
- 11) 畠山重篤：日本汽水紀行 文芸春秋 (2003).
- 12) 秩父市：第一次秩父市総合振興計画「近未来まちづくりプラン2006」218-225 (2006).
- (9) 中村律子：老老介護考—東紀州の過疎山村に生きる老人世帯を事例に. 現代福祉研究, 第4号, 33 (2004).

#### 引用文献

- (1) 総務省：過疎対策の現況, 国土庁地方振興局過疎対策室, 1-3, (1997).
- (2) 井上千津子：生活の視点から導く介護の本質. 113-115、みらい (2003).
- (3) 吉野淳一：宮本常一から学んだ「教えてもらう」。「小森康永・野口祐二・野村直樹編著 『セラピストの物語／物語のセラピスト』 119-123, 日本評論社, (2003).
- (4) 中村律子：老老介護考—東紀州の過疎山村に生きる老人世帯を事例に. 現代福祉研究, 第4号, 34, (2004).
- (5) 江口貴康：限界集落に生きる人々の「語り」の共有化の試み. 山陰研究-1, 23, (2008).
- (6) 渡辺裕一・大塚康平：限界集落における一人暮らし高齢者のソーシャル・サポート活用プロセス, 健康科学大学紀要, 第5号, 127-128, (2009).
- (7) 米増直美 松下光子：過疎地域の居住する高齢者の「通い家族」の現状と支援の在りかた. 岐阜県立看護大学紀要, 第9巻2号, 56-57, (2009).
- (8) 内山節：村の思想と地域自治. 農村文化運動, 186号, 87-90, 農文協, (2007).